

全日本中学校長会

第61回全日本中学校長会研究協議会高知大会

研究協議会主題並びに分科会研究題 (案)

平成22年度第61回全日本中学校長会研究協議会は、平成22年10月21日、22日の2日間、高知県高知市で開催される予定です。

21年度に行われる福島大会に引き続き「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備えた日本人を育てる中学校教育」を研究協議会主題として、下記のような分科会研究題を設定いたしましたので、会員の皆様にお知らせ申し上げます。これらは、教育研究部で作成し、昨年の秋には各都道府県の理事の皆様からご意見をいただき、1月の常任理事会と理事会でご審議いただき、内定したものです。

平成21年5月の総会で正式に決定されますが、担当地区の準備のため、また、会員の皆様に前もって目を通しておいていただくために、特報としてお届けいたします。

《研究協議会主題》 未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備えた日本人を育てる中学校教育

〈解説〉

今日、我が国は少子高齢化・高度情報化・国際化などの社会の急激な変化の中にあつて、日々の生活基盤までもが大きく変容し、物質的な豊かさの一方で人間関係の希薄化や相互不信感の増幅など、日常生活で心の豊かさを実感できない状況がある。

学校では、いじめや校内暴力、不登校などの解決・解消が引き続き重要な課題となっている。また、学力の向上はもとより、家庭や地域社会との連携を一層強化し、子どもたちの学習や生活の基盤づくり、規範意識の育成、すべての活動の源である体力の向上など健やかな心身の育成が学校教育に求められている。

平成18年12月には、教育基本法が60年ぶりに改正され、教育の新しい基本理念が明確に打ち出された。公共の精神や伝統と文化を尊重する考え方などが盛り込まれたことや、家庭教育や学校・家庭及び地域住民等の相互の連携協力の条項が新設されたことなど、これからの教育の方向性が示された。それを受けて学校教育法などの諸法令も整備され、様々な教育課題の解決に向かう道筋が立てられた。続いて、学習指導要領も改訂されて指導内容が定まり、具体的な実践とその成果が期待されている。

これまで、子どもたちの「生きる力」の育成を目指し、地域に開かれた特色ある学校づくりを進めてきたが、さらに実社会とのかかわりを重視し、生きていくための総合的な力（「人間力」）の育成を図ることが求められている。そのためには、学校の教育力（「学校力」）と教師の指導力（「教師力」）を高め、知識・技能を確実に習得させるとともに、それらを実際の生活や学習に活用する力、さらには生涯にわたって諸課題を探究し解決していく力を育成することが必要である。

また、将来を担う子どもたちは、豊かな人間性と創造性を身に付け未来を切り拓いていかなければならない。そのためには、子どもたちが自己実現を目指すとともに、主体的に社会の形成に参画し、我が国の伝統と文化を基盤として、国際社会に生きる誇りある日本人を育てることが重要である。

我々校長は、学校経営の責任者としての使命感と確固たる教育理念をもち、これらの課題解決に向けリーダーシップを強く発揮していかななくてはならない。地域住民から支持され信頼される学校の創造は、我々校長の双肩にかかっている。

全日本中学校長会は、新たな教育課題に対しても果敢に挑戦し、学校経営の更なる充実を目指すとともに、校長相互の資質向上と目的を明確にした研究を推進していかななくてはならない。平成22年度「第61回全日本中学校長会研究協議会高知大会」において、「未来を切り拓く豊かな人間性と創造性を備えた日本人を育てる中学校教育」を研究協議会主題として研究を深めることにより、我が国の中学校教育の充実・発展に資し、広く国民の信託に応えるものである。

《分科会研究題と研究の視点》

1 創意工夫に満ちた特色ある教育課程の編成・実施 (担当 東北地区)

(解説) 国家・社会の形成者として、未来を切り拓いていく資質をはぐくむためには、校長のリーダーシップのもと、「学校力」のさらなる向上を目指した、中・長期的展望に立った学校経営が不可欠である。

また、校長は「確かな学力」「豊かな心」「健やかな身体」をバランスよく身に付けた生徒の育成を期した自校の「目指す学校像」を明確にして、創意工夫に満ちた特色ある教育課程の編成・実施に努め、学校評価の結果を生かした学校改善を進めていくことが重要である。

さらに、新たに設定された義務教育の目標を具現化するために、小・中学校の連携を重視し、円滑な接続を目指した教育課程の工夫・改善を図る必要がある。そのためにも、校種間の効果的な連携の在り方について、各地の先進的な取組を基に研究することが大切である。

- 〈研究の視点〉
- 中・長期的展望に立った学校経営
 - 知・徳・体の調和のとれた特色ある教育課程の編成・実施
 - 小・中学校の円滑な接続を目指す教育課程の工夫・改善

2 「確かな学び」を保証する指導の充実 (担当 関東甲信越地区)

(解説) 「確かな学力」の定着には、基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能の活用、探究活動を取り入れた指導の工夫・改善とともに、生徒一人一人の資質や生活環境を把握して学習への興味・関心を高めるなどの「確かな学び」の保証が必要となる。

そのためには、全教職員が常に授業の工夫・改善に努め、学習内容の定着を図るとともに、生徒の学ぶ意欲を高めるための学習評価の工夫・改善を進め、指導と評価の一体化をさらに図る必要がある。

また、生徒の家庭での生活様式が大きく変わり、家庭学習の時間が減少傾向にある。家庭での学習習慣は「自ら学ぶ意欲」や「自ら学ぶ態度」を身に付けるためにも極めて重要であり、家庭と連携した学習基盤づくりが大切である。

- 〈研究の視点〉
- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得と活用を図る指導の工夫・改善
 - 学ぶ意欲を高める学習評価の工夫・改善
 - 家庭と連携した学習基盤づくり

3 特色ある教育活動の充実 (担当 中国地区)

(解説) 特色ある教育活動の充実のために、「総合的な学習の時間」を活用することができる。実社会や実生活とかわりながら、自ら学び、自ら考える力をはぐくむ上で大きな役割を担うと同時に、各学校の創意工夫を生かした教育活動が推進できる重要な時間であることを十分認識し、質の向上を図ることが大切である。

特色ある教育活動を推進するに当たっては、地域の自然や有形・無形の文化財を活用し、我が国の風土、歴史、伝統、文化等の理解を深める活動を組み入れていくことが考えられる。優れた伝統や文化を継承し、発展させていく教育活動は、豊かな人間性をはぐくみ、国際社会に生きていく力を身に付けさせるためにも重要な意味をもっている。

また、家庭や地域の多様な教育力を自校の教育活動に取り入れ、それらを活用した教育活動を充実させることが大切である。

- 〈研究の視点〉
- 「総合的な学習の時間」の質の向上
 - 伝統や文化の理解・継承・発展を図る教育活動の推進
 - 家庭や地域の教育力を生かした教育活動の充実

4 豊かな人間性や社会性をはぐくむ教育の推進 (担当 北海道地区)

(解説) 社会の急激な変化の中では、生徒一人一人に、主体的に生きていくための価値観や道徳的実践力、判断力などを身に付けさせ、豊かな人間性や社会性をはぐくむことが必要である。

そのためには、道徳の時間の確実な実施が重要であり、「心のノート」の活用や、多様な道徳教材を開発するなど、心に響く道徳の時間を充実させ、教育活動全体で行われる道徳教育の一層の推進が必要である。

また、社会性をはぐくむ上で、基本的な生活習慣の確立とともに、社会生活を送る上でのルールやマナーについて多様な体験を通して考えさせ、自律の精神を高め、規範意識の向上を目指す指導の充実が重要である。特に、いじめや、急増するインターネット、携帯電話を介した事件・事故への対策と未然防止は急務である。

さらに、豊かな心をはぐくむためには、様々なボランティア体験や社会体験が極めて有効であり、地域の人的・物的な教育環境を整備し、活用する取組が重要となっている。

- 〈研究の視点〉
- 心に響く道徳の時間の充実
 - 規範意識の向上を目指した指導の充実
 - 豊かな心をはぐくむ教育環境の整備と活用

5 健やかな心身をはぐくむ教育の推進（担当 近畿地区）

（解説）不登校や規範意識の低下から生じる学校不適應の問題は、大きな社会問題となっており、その解決が喫緊の課題である。また、家庭での虐待やコミュニケーション能力不足から生じる学校不適應の増加も新たな問題になっている。現在、それらへの対応として、スクールカウンセラーの配置や、様々な教員研修が進められているが、さらに各学校では組織的、継続的な個別支援を充実させるなどの工夫が大切である。このことについて、公的な機関はもとより、NPOなどの民間機関の活動も広まっており、家庭・地域社会とともに関係諸機関との連携も必要である。

また、健やかな心身をはぐくむために、家庭との連携を密にして、基本的な生活習慣の確立や、食育を中心とした健康教育の積極的な推進とともに、生涯にわたる心身の健康の保持のために重要な役割を果たしている部活動の改善・充実が必要である。

- 〈研究の視点〉
- 学校不適應生徒への対応の在り方と工夫・改善
 - 家庭・地域社会・関係諸機関と連携した生徒指導の推進
 - 健やかな心身をはぐくむ健康教育や部活動の充実

6 社会的な生き方を希求する進路指導の充実（担当 九州地区）

（解説）将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力や態度の育成を目指して、進路指導の充実が図られなければならない。そのためには、中学校3年間を見通した指導計画を作成するとともに、学級活動等の指導におけるガイダンスの機能を十分生かしていくことが重要である。

また、社会の急激な変化に伴って若者の仕事に対する意識も大きく変化しており、中学校においては未来社会の形成者としての自立的な態度や、「生き方」につながる勤労観、職業観を育てる「キャリア教育」の充実を図る教育課程の編成・実施が必要である。

さらに、「キャリア教育」の視点から、職場体験学習を中心とした社会体験活動を充実させ、各学校で創意工夫のある取組を推進することが大切である。

- 〈研究の視点〉
- ガイダンスの機能を生かした進路指導の充実
 - 勤労観、職業観を育てる「キャリア教育」の充実
 - 職場体験学習を中心とした社会体験活動の充実

7 教師力の向上を目指した研修の充実（担当 四国地区）

（解説）「新しい時代の義務教育」が目指すものは、「学校力」と「教師力」を強化し、それを通して、子どもたちの「人間力」を豊かに育てることである。

校長は、「学校力」を高めるため、創造性豊かで使命感に満ちた教師を育成し、「教師力」の向上を図らなければならない。

そのためには、学校内外の研修や初任者研修、10年経験者研修、教員免許の更新講習などを通して教師の意識改革を進めるとともに、実践的な指導力を向上させなければならない。また、教職員が自ら高い目標を設定し、進んで専門性と資質・能力の向上に努めるように士気を高めることも大切である。その手だてとして、校長には人事評価システムの有効な活用や、副校長・主幹教諭・指導教諭などの機能を高める組織マネジメント能力の向上が求められている。

- 〈研究の視点〉
- 創造性豊かで使命感に満ちた教職員の育成
 - 教職の専門性と資質・能力の向上を図る研修の推進
 - 教職員一人一人を生かす組織マネジメント能力の向上

8 時代の要請に応える学校経営の充実（担当 東海北陸地区）

（解説）研究主題との関連のもとに、時代の要請に応えるため、学校経営上の今日的な課題を取り上げ、その改善に向

けての研究を深める必要がある。

ノーマライゼーションの精神に基づいた特別支援教育が始まっている。各学校においては、この理念の具現化のために、現実的な課題を踏まえ、関係機関との連携、校内委員会の設置、各種研修会の企画等の推進体制を整備することが重要である。同時に、保護者へは、特別支援教育の理念や自校での取組について理解と協力が得られる活動を行う必要がある。

各学校における教育の質を保証するためには、その成果や課題について適切な検証が重要である。検証の手段として、学校評価ガイドラインに基づいた学校評価の一層の充実が必要である。

また、平成13年度から導入された学校評議員制度はすでに定着を見せており、その発展した制度としてのコミュニティー・スクールが全国各地に広がる傾向がみられる。この新たな教育制度についても、その実態や成果と課題について研究を進める必要がある。

今日、ICTの活用はめざましく、各学校でも成績処理を含めて校務におけるコンピュータの活用が急速に広がっている。特に、校内LANの整備が進んでいる学校では、データの一元管理により、生徒の個人情報の管理、通知表の作成など校務の効率化を進め、生徒に向きあう時間を確保している例もある。その先進例を研究し、適正な活用を普及させていく必要がある。

一方、ファイル交換ソフトや記憶媒体紛失などによる個人情報の漏洩も後を絶たない。校務のICT化に伴う厳格な情報管理システムの構築と、新たな個人情報取扱ガイドラインの策定が不可欠である。

- (研究の視点)
- 特別支援教育の推進体制の整備と保護者への啓発
 - 学校評価の充実と学校評議員制度等の活用
 - 校務のICT化と情報管理システムの構築

教育研究部名簿 (*印は研究協議会担当)

部長	岡田 行雄	東京都千代田区立神田一橋中学校	幹事	大野 容義	東京都青梅市立第一中学校
副部長	白石 求生	東京都練馬区立北町中学校	幹事	蚊野 秀明	東京都西東京市立保谷中学校
副部長*	三町 章	東京都国分寺市立第二中学校	幹事*	千葉 秀彦	茨城県水戸市立内原中学校
副部長	今澤 正良	千葉県千葉市立さつきが丘中学校	幹事	大島 恭一	栃木県宇都宮市立一条中学校
幹事	木島 光二	東京都台東区立桜橋中学校	幹事*	亀井 優	群馬県桐生市立川内中学校
幹事	齋藤 盛久	東京都大田区立糞谷中学校	幹事	岩田 泉	埼玉県桶川市立桶川中学校
幹事*	藤井 裕二	東京都大田区立蓮沼中学校	幹事*	小池 治	神奈川県海老名市立今泉中学校
幹事	稲葉 秀哉	東京都板橋区立赤塚第二中学校	幹事	米山 和年	長野県長野市立川中島中学校
幹事	武田 幸雄	東京都八王子市立別所中学校	幹事*	小田八重子	新潟県新潟市立小新中学校

本特報についての問い合わせ先

全日本中学校長会 教育研究部

部長	東京都千代田区立神田一橋中学校	岡田 行雄
	TEL 03-3265-5961	FAX 03-3265-4040
担当副部長	東京都国分寺市立第二中学校長	三町 章
	TEL 042-322-0642	FAX 042-328-2412